

お姉ちゃん+

R18

あだるとおんりい



怪盗紳士団

夏のあの日の事
今でも鮮明に
覚えてる

おばあちゃんの家がある田舎

キラ

キラ

友達もいなく
時間を持て余して
いた

そんな少年に
優しく声を
かけてくれた

青空を背にした
女の子



キラキラと
輝いていて

目が離せな
かった

ドキ

ドキ

ドキ

あの時の俺には
世界一のアイドル

そう思えたんだ

親愛度10達成後

やはり莉波
お姉ちゃんは
トップアイドルの
才能がある

誰だここまで才能を
見いだせなかった
ヤツらは！

やはり俺じゃ
ないと！

あっ

プロデューサーくん

えっち

しよっか♥

は!?

ちゅっ!

ほんっ!

アイドルは
冗談でもそんな
事を言っては…

?

冗談じゃない
よ?

更にダメです!

うん…



な…なんだ
この感覚

はっ
はっ
はっ

記憶…?



わっ
はっ
はっ

そっかそっか
照れてるんだね

前みたいに

たっ
たっ

きっ
きっ



あの時の
バス停の裏?

知らないぞ
この記憶

知らない?
いや…

これは
間違いなく
俺だ…

俺? 記憶に無い

あの時…
こんな事を

綺麗…だ

くっ

…ん？
胸…こんなに
大きかったか？

くっ
にゅん

これはもしや
違う世界の俺の
記憶…

知らない
記憶…

むぐ…

しゃ…

違うな

ググッ

ふにゅん



そうか…

今まで
無かっただけで
コレは俺だ



すでに深い仲
だったんだ

はあ

はあ

はあ

俺達は…
あの時すでに



俺の記憶!

そう…
これは
どっちも
俺だ



そう…
少なくとも
今…は…



と…
とにかくっ

そういう事は
ダメです

俺は
プロデューサー
なので



そっかそっか
分かったよ

なっ？！

久しぶりだから
照れてるんだね



なっ…
なんだ!?
この細腕から
信じられない
力…

コレが…
アイドルの
腕力…



大丈夫♥

ふふふ

お姉ちゃんに
まかせて!





元気だね〜

お姉ちゃん
嬉しいよ

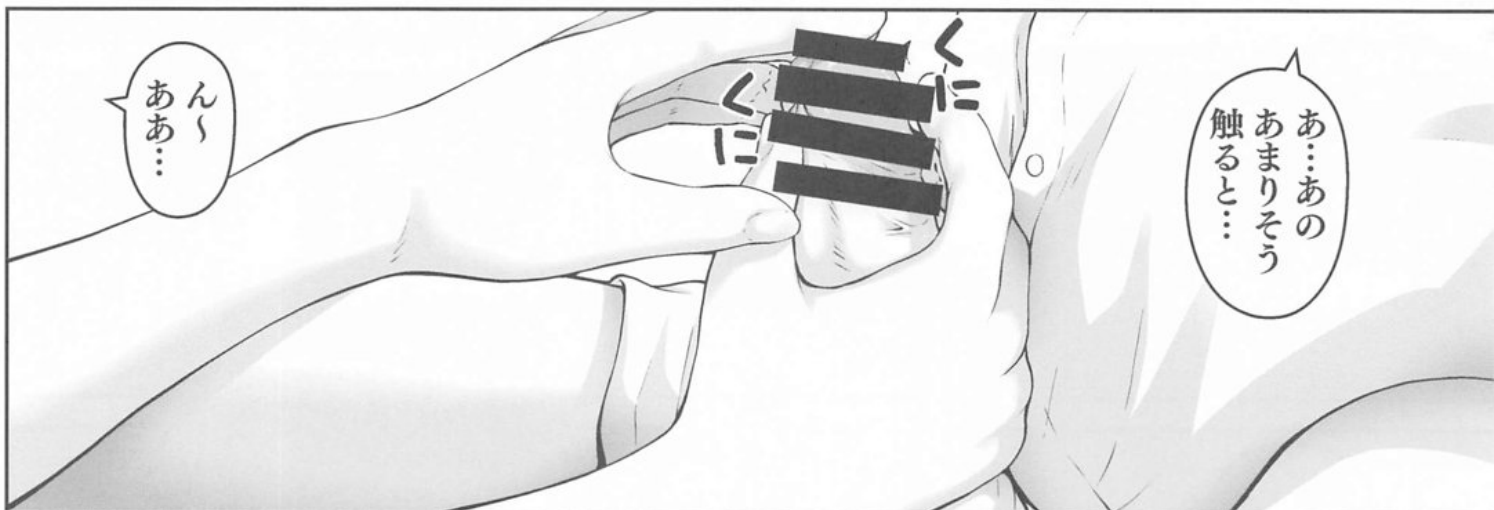
すり
すり



うわっ

さ...
逆らえない...

コレが...
お姉ちゃん力...



ん〜
ああ...

あ...あの
あまりそう
触ると...



あ〜



ゴメンね♥

そっかそっか〜
このままじゃ
...だね







成長...楽しみだよ♡

して欲しい事も言わなくとも分かっている

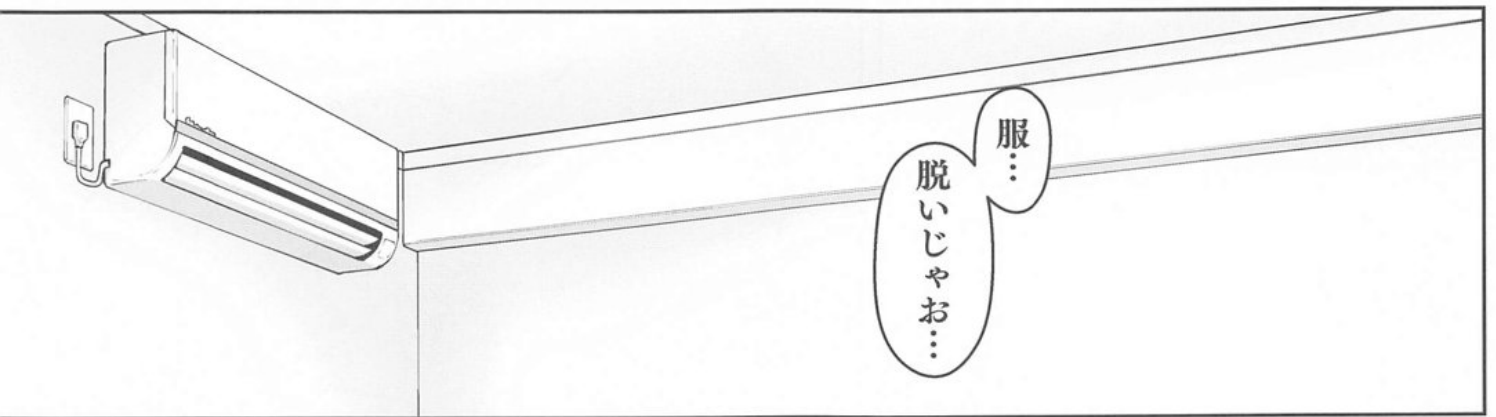
莉波お姉ちゃん は...

ラッ...!

ふふっ

くっく

くっく



服...

脱いじゃお...



うん... 涼しい...

ふふっ



ふあッ...



おっぱいに顔埋めながらするの好きだよね

たぷん

は…はい…



じゃあしよっか

ふんっ♡

えっち♡

ちゅっ!



いや…そのどうしたものかと…

ああ…

ふんっ

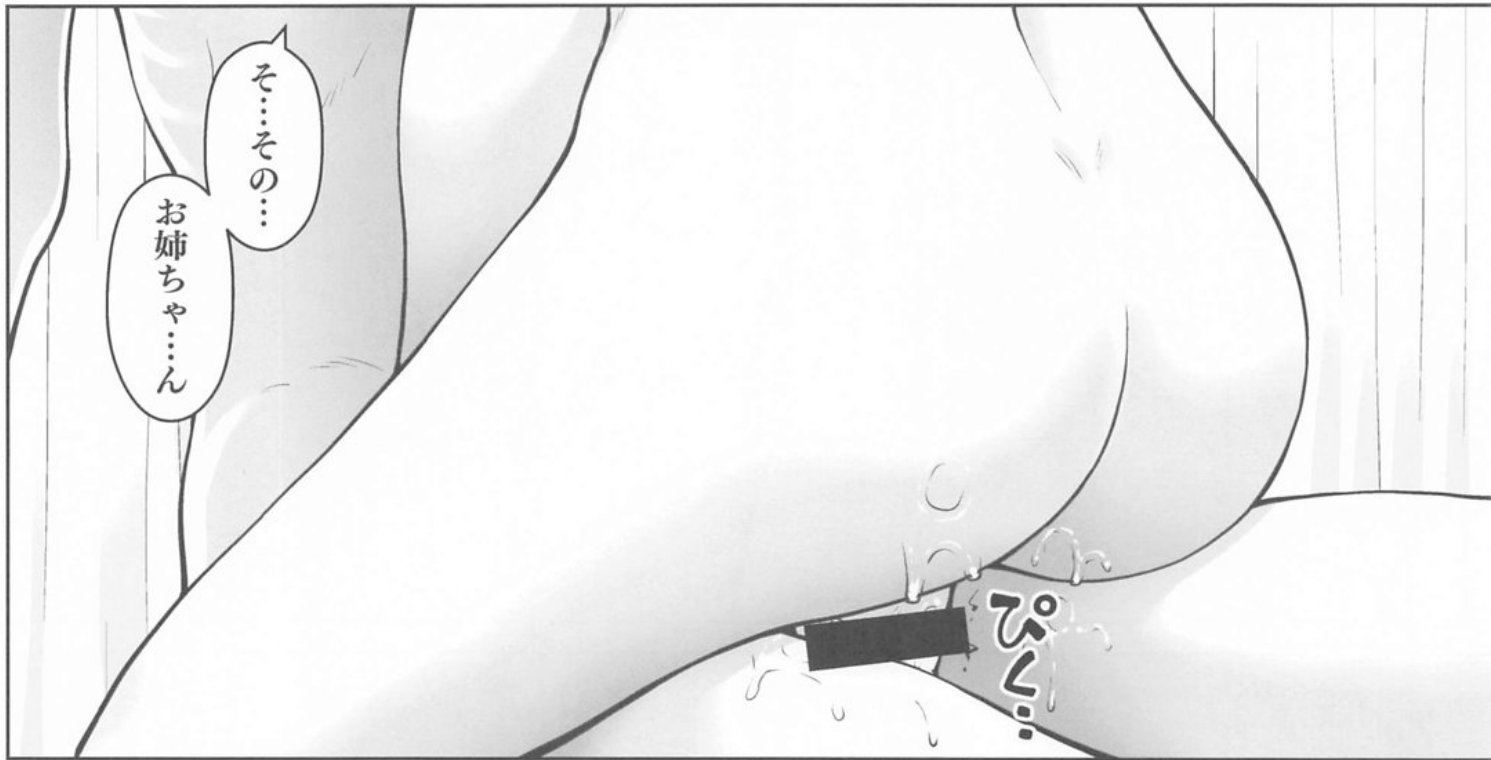
ん?

くっ

ん?

どうしたの







じゃあ…一緒に

はあ…

気持ちよくなろうね♥

ぬちゅん

ちゅん



も…もう身体も…

おちんちんも…こんなに

大きく…なっちゃって

はあ

びん

びん

たっ

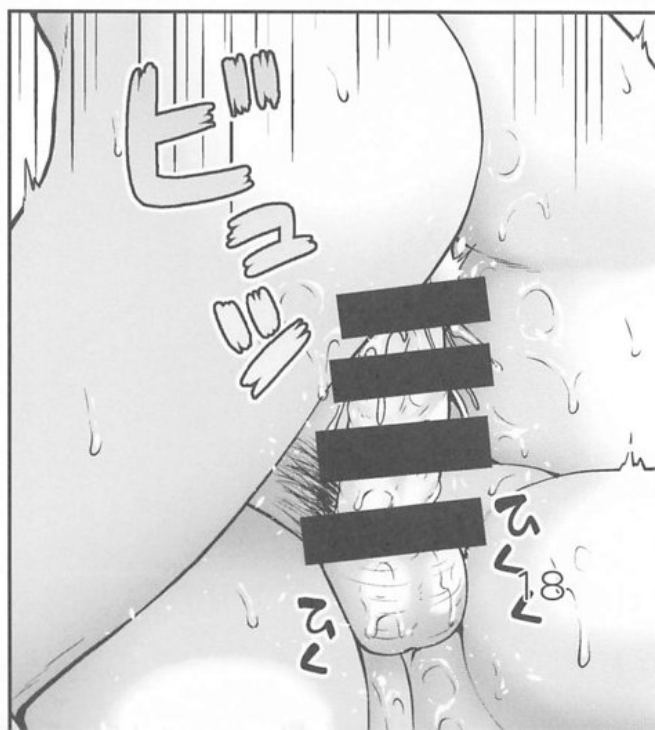
びん

ぬちゅん

ずん

びん

完全に お姉ちゃんの ペースだ





結局色々
してしまった…

と…
とはいえ

俺のやるべき
事は変わらない

他の誰にも
任せられないから

俺が
莉波お姉ちゃんを

ふふふ

んんん？

トップアイドルに
する！

あ…
もしかして…

したく
なっちゃった
かな？

ふふ～

ちっ…
違います

少なくとも
今は…

胸への限定水着
もいっかゆんて
見れる標準のも致し
(チビルはあんただ)

シロアサ的にはシンプルな
こっちの方がセクシーさ
が著々と高い

とはいえ専用の
照機がよくなるといっ
ごめんあつぱ



あとがき

はじめまして、もしくは再びどうもです。

学マス、開始前からチェックしてて願書集めに行ったりしてたけどその時はそこそこ流行れば良いなあ…とってた。でもまさかの大流行りで正直ビックリ。そんな訳で今描くならこっちだろう！とお姉ちゃん本です。

…と、事前にチェックはしてたものの詳細は分からず推しは迷ってました。思った以上にだいたい変な…ではなく個性的面々が多い。その中で気になったのは年下のお姉ちゃんである莉波さん。

実際はちゃんと意味とそこまでの理由はあったのでコミュ見ればおかしいけど変とも言い切れない絶妙な設定。個人的に気に入ったのは幼馴染みである事。

自分は特にこの要素が大好きなのでお姉ちゃん担当になりました。なお、わりと言われてるPは好意に気付かないボンクラではなくちゃんと理解してるしなんならガチ両思い説を考えてます。

学園3年生でアイドルとして後が無くほぼ諦めてる事から見てもアイドル活動は今しか出来ない事はハッキリしてます。恋人になって付き合っても後で確実にあの時アイドルやっていればと後悔すると思う。

だからこそPはお姉ちゃんが最も輝く方向&方法でプロデュースしてるのでは？と。他担当を見ても有能な事が多い学マスPがただ趣味全開なわけは無い。

それはそれとして公式でもそれぞれパラレルワールドな世界っぽいのではみ出しまくってしまった世界も見たいので描いてみました。ああ…お姉ちゃんと一緒に帰省したい…。

…と、そんなこんなな気分で描いた莉波お姉ちゃん本、楽しんでいただけたら嬉しいです。

カイシンシ

奥付

お姉ちゃん+

発行：怪盗紳士団

著者：カイシンシ

発行日：2024.8.12

印刷所：ねこのしっぽ

E-Mail nadesune@gmailcom